有田市

取り出しやすい場所に保管しておきましょう

保存版

洪水ハザードマップ

災害に対しては日頃からの備えが重要です。“自らの安全は自らが守る”ための行動や対応をとることが被害を少なくすることにつながります。「有田市 洪水ハザードマップ」は、住民のみなさんに防災に関する情報を提供し、事前の備えに役立てていただくことを目的に作成しました。

このマップで次のようなことを確認してください

避難場所までの経路 / 自宅周辺の被害想定 / 情報の入手先 / 非常持ち出し品・非常備蓄品の準備

わが家の防災メモ

わが家の避難場所

家族がはなればなれになった時の集合場所

家族の連絡先

名　前	生年月日	血液型	会社や学校の連絡先	携帯電話番号

インターネットによる防災情報の入手先

有田市の避難所、津波や雨量・河川水位等の情報は、パソコンや携帯電話を使ってインターネットからも確認することができます。

有田市ホームページ	有田市の避難所や防災に関する情報を提供	http://www.city.arida.lg.jp/
気象庁	全国の気象や災害、洪水予報などの情報を提供	https://www.jma.go.jp/jma/
和歌山地方気象台	気象に関する警報・注意報を発表	https://www.jma-net.go.jp/wakayama/
和歌山県砂防課	土砂災害警戒情報などの情報を提供	http://kasensabo02.pref.wakayama.lg.jp/
川の防災情報	全国の雨量や水位などの情報を提供	https://www.river.go.jp/

防災わかやま	和歌山県内の災害・防災・避難情報などを提供 http://bousai-portal.pref.wakayama.lg.jp/
防災わかやまメール配信サービス（無料）	防災情報をメールでお知らせするサービスです。登録は次のアドレスへ空メールを送信してください。 **regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp**
有田市メール配信サービス	有田市の警報・災害・避難・国民保護などの防災情報を提供 https://service.sugumail.com/arida/member/

防災・防犯・行政・イベントの4つのカテゴリの情報をメールでお知らせするサービスです。登録は次のアドレスへ空メールを送信してください。（登録は無料）
t-arida@sg-m.jp　[コールセンター:0120-670-970]

いざというときの連絡先

有田市役所	有田市消防署	有田警察署
☎0737－83－1111（代表）	☎0737－83－0119	☎0737－83－0110

災害用伝言サービス

地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が数日間続くことがあります。このような場合は、「災害用伝言ダイヤル」・「災害用伝言板サービス」・「災害用ブロードバンド伝言板（web171）」が開設されます。

災害用伝言ダイヤル

このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」（安否情報）の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生をすることができます。

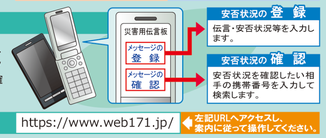
体験利用日 ● 毎月1日・15日 ● 1月1～3日 ●防災週間 ●防災とボランティア週間

伝言の録音方法	伝言の再生方法
①171をダイヤル	171をダイヤル①
②1を押す	2を押す②
③被災地の方の電話番号を「市外局番」からダイヤルしてください（被災地内の方も、被災地以外の方も）	ガイダンスが流れます③
④伝言を録音する	伝言を再生する④

ガイダンスが流れます

災害用伝言板サービス

携帯電話を使って被災者は安否状況の伝言を登録し、外部の人がその伝言を確認できます。携帯電話のトップメニューから「災害用伝言板」を開き、伝言の登録・確認を行います。



安否状況の登録：伝言・安否状況等を入力します。

安否状況の確認：安否状況を確認したい相手の携帯番号を入力して検索します。

災害用ブロードバンド伝言板(web171)　https://www.web171.jp/　左記URLへアクセスし、案内に従って操作してください。

インターネットを利用して被災者の安否確認を行う伝言板です。伝言情報の登録・閲覧が可能です。

発行　**有田市役所　防災安全課**　〒649-0392　和歌山県有田市箕島50番地
TEL 0737-83-1111（代表）　FAX 0737-82-1725　有田市ホームページ http://www.city.arida.lg.jp/　（令和3年3月作成）

大雨・洪水に関する注意報・警報

下記のような場合、気象庁から「注意報」「警報」が発表されます。さらに、警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。

大雨・洪水注意報	大雨・洪水警報	大雨特別警報
災害が発生するおそれがある	*重大な災害が発生するおそれがある*	*「警報」よりもはるかに高い危険度*
大雨：大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨：大雨により、重大な浸水災害や重大な土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨：台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想されるときに発表。
洪水：大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水やはん濫、堤防の損傷や決壊による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	洪水：大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水やはん濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生する可能性があります。

●大雨などのときには、テレビやラジオなどで最新の注意報・警報・特別警報の発表状況を確認するようにしましょう。また、NTTテレホンサービス「177」や気象庁ホームページ（https://www.jma.go.jp/）でも確認できます。
●有田市に注意報・警報が発表される際の雨量基準値などについては、気象庁ホームページでも知ることができます。

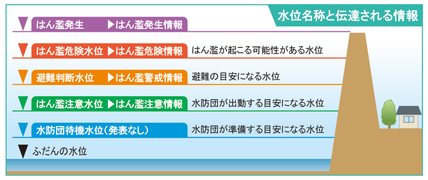
河川のはん濫発生情報

川の水位が上昇し、洪水のおそれがあるとき、国土交通省から河川の水位情報が発表され、報道機関などを通じて一般に周知されます。河川の水位に関する情報は危険に応じて、水位名称と合わせて伝達されます。

情報伝達の流れ

国土交通省発表 → テレビ・ラジオ ホームページ 等 → 市民のみなさん

水位名称と伝達される情報



雨の強さと降り方（1時間雨量）

※気象庁資料参照

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
10～20mm未満	20～30mm未満	30～50mm未満	50～80mm未満	80mm以上
地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。	土砂降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。小河川ならはん濫、また、がけ崩れの心配もあります。	激しい雨。山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなります。道路規制も行われます。避難の準備を。	滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。屋内で寝ている人の半数くらいが気づくほどの激しい雨で、多くの災害が発生します。	息苦しくなるような圧迫感があります。大雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要です。

避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。

状況により、すばやく避難しましょう
避難情報などが発表されていなくても、雨の状況などから判断し、自主的に避難しましょう。

外出中の家族には連絡メモを残そう
外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくと良いでしょう。

住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう
高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。

集団で避難しましょう
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。

車での避難は控えて
車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は避けましょう。

安全なルートで避難
避難所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。

持ち出し品は最小限に
非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。

避難所では係の人の指示に従いましょう
避難所に着いたら、係の人の指示に従い、住所・氏名を報告しましょう。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければなりません。そのような場合は、避難場所への移動（水平避難）だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動（垂直避難）を行い、救助を待つという判断も必要です。

危険な避難

避難場所への避難（水平避難）

高所への避難（垂直避難）

過去にはこんな水害が…「7・18水害」による有田市の被害

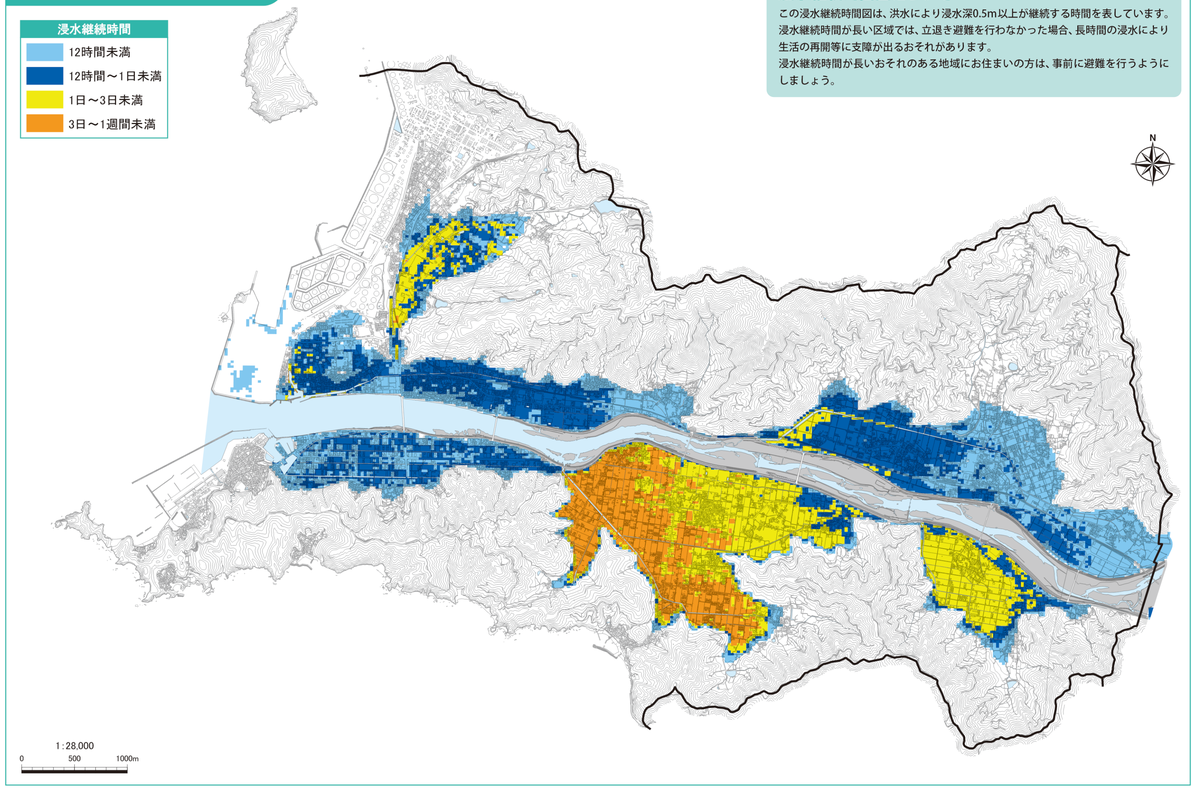
有史以来最大の被害を被った7・18水害は、昭和28(1953)年7月18日の集中豪雨がもたらしたものでした。有田川上流地方の500mmを超える雨がおびただしい土砂と立木や材木をまじえた毎秒8,500m³の濁流となって河岸の堤防を破壊し、人も家も道路も橋もひとなめにして紀伊水道へ押し流してしまった大水害でした。

7・18水害での被害状況

	死者(人)	行方不明(人)	重傷(人)	軽傷(人)	全壊流出(戸)	全壊全焼(戸)	半壊(戸)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)
箕島町	3	0	49	124	65	254	176	1,022	231
保田村	9	20	40	450	120	480	59	不明	47
宮原村	39	90	47	1,330	251	376	78	23	16
糸我村	0	0	1	150	2	14	42	237	15
計	51	110	137	2,054	438	1,124	355	1,282	309

▲水害の浸水域と流失家屋が多かった地域

有田市 浸水継続時間



浸水継続時間図について

この浸水継続時間図は、洪水により浸水深0.5m以上が継続する時間を表しています。浸水継続時間が長い区域では、立退き避難を行わなかった場合、長時間の浸水により生活の再開等に支障が出るおそれがあります。
浸水継続時間が長いおそれのある地域にお住まいの方は、事前に避難を行うようにしましょう。

非常持ち出し品の準備

災害が発生したときは、すぐに避難しなければなりません。避難する場合に備えて、リュックサックなどに必需品をまとめ、持ち出しやすい場所に保管しておきましょう。

食品・水
□飲料水（500mlペットボトル程度）
□乾パン・クラッカー・缶詰など、火を通さないでも食べられる物

救急・安全関係
□救急医薬品（絆創膏・傷薬・包帯）
□常備薬
□ヘルメット（防災ずきん）
□マスク
□体温計
□手指消毒液

貴重品
□現金
□クレジットカード類
□預貯金通帳、印鑑
□権利証書
□免許証
□健康保険証

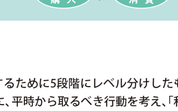
日用品
□筆記用具
□電池
□ティッシュペーパー
□ビニール袋
□懐中電灯
□携帯ラジオ
□ナイフ、缶切り

食品衣類など・水
□衣類（下着・上着）
□タオル
□毛布
□手袋、軍手

その他
□洗面用具（歯ブラシ・石けん）
□ほ乳びん
□紙おむつ
□メガネ

「循環備蓄」を心がけましょう

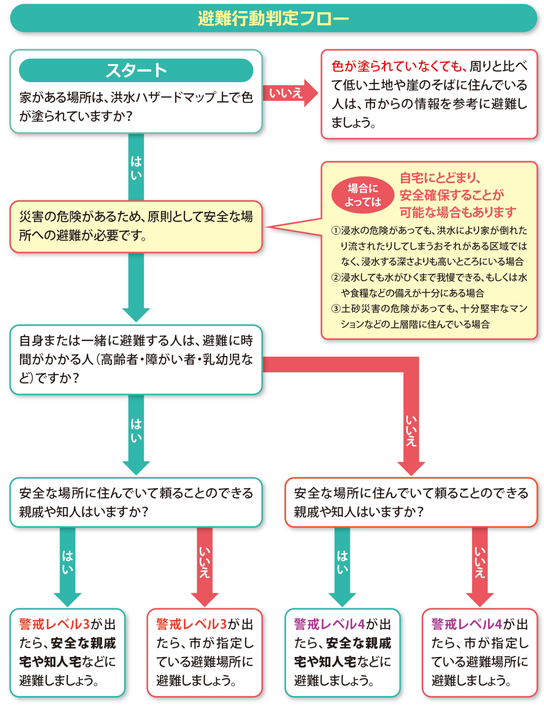
備蓄食料・飲料水などの保存期限が切れる前に消費し、その分だけ新たに補充して常に一定量のストックがある状態を保つことを「循環備蓄」といいます。定期的に古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、また、いざというときに期限切れで使えなくなることを防ぎます。



警戒レベルと避難行動

警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民が取るべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたもので、市が避難情報と合わせて出す情報です。避難行動判定フローを参考に、平時から取るべき行動を考え、「私と家族の行動」の欄に記入しましょう。

避難情報等	警戒レベル	防災気象情報（気象庁が発表）	とるべき行動	私と家族の行動
緊急安全確保	警戒レベル5	大雨特別警報	**すでに災害が発生している状況です** 命を守るための最善の行動をとりましょう。 また、この段階では安全な避難が難しい場合があるため、レベル3・レベル4の段階で安全に避難を終えましょう。	
避難指示	警戒レベル4	土砂災害警戒情報	**いますぐ安全な場所へ全員避難** 速やかに避難場所へ避難しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	
高齢者等避難	警戒レベル3	大雨警報・洪水警報	**高齢者や要介護者等は避難** 高齢者、障がいのある方等、避難に時間のかかる方とその支援者は避難を開始しましょう。 その他の方は、避難の準備を整えましょう。	
	警戒レベル2	大雨注意報・洪水注意報等	**ハザードマップなどで避難行動を確認しましょう** 災害の危険性のある区域、避難場所、避難経路、避難のタイミングを確認してください。	
	警戒レベル1	早期注意報	**最新の防災気象情報などを確認しましょう** 災害への心構えを高めてください。	

避難行動判定フロー

台風や豪雨時にあわてずに避難をするためには、日頃から、周囲の災害リスクを把握し、いつ、どのような避難行動を取るべきか、事前に考えておくことが大切です。台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう。